

Z8-101

北海道地方史研究 78

国立国会
45-910
図書館

目次

本土農民層分解と北海道移住	栗田 精司 (1)
富良野地方の石冠について	富良野工業高校郷土研究部 (25)
山田文右衛門の軟顔口上書	元木 省吾 (27)
随筆 古本 (18)	奥山 亮 (30)
盲人への義手	須藤 隆仙 (32)
「室蘭地方の医学史」―補遺及び訂正	松本 明知 (34)
第1-8 5帝國議会北海道関係請願件名録(5)	奥山 亮 (40)
北海道郵便事業物語(6)	みねひろし (40)
省 評	奥山 亮 (49)
身辺雑事 (短歌)	倉島 輝男 (24)
雪解の真 (俳句)	倉島 輝男 (48)

昭和45年9月

北海道地方史研究会

Kodak Color Control Patch
Blue Cyan Green Yellow Black

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

GYM

© Kodak 2007 110 Kodak

イフ草を水につけて腐敗させ充分に乾燥したものより抽出する。尚冬期に枯れたものを利用して
もよい。a式作業台の上でA型の石冠を利用した場合が最高であるがD型の石冠でも可能である。

トウワタの場合は冬期に枯れたものを材料とする。a式の作業台の上でB₁型の石冠を利用した
場合が良質の繊維を得ることができる。

3. 食物の調理(クルミ)

食物は木の皮、草の葉を粉末にする際に石冠が利用される。特にクルミの場合はb₂式の作業台
の上でC型石冠を使用すると能率的であつた。

5 石冠の編年

石冠の編年の位置の決定は研究の深度、発掘調査資料の不足などから尚早の感があるが、次の通り
の試案をつくり研究のてだてとする。

A型→縄文早期末→縄文晩期

B型→縄文晩期→縄文中期

C型→縄文初期

D型→縄文早期末→縄文中期

6 おわりに

我が部が誕生して3年、研究の方法、研究の注り方等についても不明な点が多く、この報告も、研
究報告と云うよりは、資料を公開して皆様の教示を受けることを目的として居ります。

(〔部員名〕) 小川、佐藤、田中、辻、中河、本多、石黒、大森、安川、渡部、佐藤、山中

身 辺 雑 事	豊 島 博 男	兼に優れし才能持たぬ我なれば持統し励むほ かなしと思ふ	昨夜の独唱会聴かざりし我は妻とシユワルツ コップの歌レコードで聞く	階段より足踏みはじして傷負ひし妻の通院は や月を越す	締切日迫りし歌を詠みなづみストープの辺の 我は寝る	この冬の厳しき寒さに堪えかねしか胸われて 老いし白鬼死す
------------------	------------------	--------------------------------	--------------------------------------	-------------------------------	------------------------------	---------------------------------

山田文右衛門の歎願口上書

元 木 省 吾

山田文右衛門(文政元-明治16年)は本道拓殖、開発功勞者として、既に開道50年記念式
(大正7年)で追彰されたが、昭和43年の北海道100年でも、又その1人に選定された。私も当
時選考委員の一人であつた。且つ函館に関係の人なので、改めてその履歴・功績を検討して、變
父以来のユウフツ・サル・アツケシ三ツ角場所の経営・樺太東海岸牧場の開発、特に昆布投石業
殖法の創案、成功などの記録を新にした。所がその後、函館地方裁判所の資料室で、明治初年の
「訴訟審 刑法課」中に、次の長文の歎願口上書(明治2年3月。半紙6枚。1枚16行、1行
16・8字)を読んで、文右衛門の隠れた人となりを知った。10万兩余の借財の上に、遇上金持
借金の上、返納も出来ず、三場所も取り上げられ、破産の寸前に立つて責任上内隠居をしたが、夷
患は自らが心身を砕いて難局挽回につとめ、42名(内箱館20名)の債權者の1人1人に、歎願
書とは言え、文右衛門が辞を低うし、嗣子、分家、店支配人、加減者(加担か)6名と連帯して、
無利子10年間(明治2~11)掘置き、その後50年賦(明治12~昭和4)支払を懇願し、改
めて借用金証文を入れ直したのが、この歎願者口上書であつた。

郷土史料の内容としても、貴重な点が多いが、私は名義人山田文右衛門が終始感謝の念を以て、
微をつくし細に見つて現状に至るまでの事情を訴え、更にあくまで支払遂行の為に、誠意を披瀝し
て、この条件を懇願した、彼の人となりにつよく打たれた。誠に名文である。当時42名の債權者
も、さぞかし胸打たれたことであろう。

この大難局が、いつ、どう言うように解決したかは、未考だが、明治14年9月明治天皇行幸の
折、多年の功勞を嘉して、賞状を賜っているから、既に立派に立ち直つていたことは事實である
う。

歎 願 書 口 上 書

文右衛門儀は迄各様方御慈悲ヲ以ユウフツ・サル・アツケシ三ツ角場所創設清負渡世仕候処、御見聞
之通近來不遇而已打統、其上米穀者勿論諸物價年増貴賤いたし、右ニ準ス(シ)並人線方給料等も

格別相増、猶又御場所増進上金等之儀も、御承知之通存外ニ御増高ニ相成、最近年産物値段引上り候と著年申、アツケレ御場所之儀者土人少人別之儀ニ付、数多之人民ヲも扇越、扇越いたし候御場所柄之儀ニ御座候者、自然と諸尊貴相掛り年々仕払勘定相立差、右ニ付年増損得相違ミ日ヲ追テ度弊仕候ニ付、既ニ去々御（昭和3年）秋中者過茲可仕と覚悟仕候得共、土御印・△御印・△御印右御三家之義者、旧来より別段御想意ニ致来候儀ニ付、地店引立ニ相成候様之御意相願候処、從來之因縁も有之候ニ付、立入御世話被成下候義ニ相成候ニ付、御恩借之御方江者年賦御慈願上候処、夫々御同席被成下候ニ付、文右衛門候者内膳居仕、家業向之義者都而右御三家江御任申上候処、種々御配慮被成下候得共、折悪致忤辰（明治元年）年之義者、御時負場所未會有之大不慮、加之産物値段者率外之下落、旁以御三家之御手配ニも及衆候處ヲ以、右御三家立入御世話向之義去秋中御断リニ預り、無効義ニ付其後家族一同償還仕候得共、右之次第柄殊ニ右去秋中より種々之災害而巳有之、増増費相募リ候ニ付、三ヶ御場所去十月納御運上金ヲ始、廉々之拝借金等上納者勿論、土人御賣品并米稻増増其他諸仕入品等指下万必至と指支、其上御場所御備米等も竟増増借遣ヒ払候得共、積務返納可仕義も相成不申、如何共手段尽し果、數息罷有候折候、御所地之儀去ル10月中御家業之御時勢と相成り、右ニ付還上金并拝借金等急速上納可仕様、御慶重之御沙汰御仰出候得共、前書之次第柄ニ付、連も上納可仕手段無効義、依之格別之御憐愍、當巳（明治2年）3月中迄御願予奉返上候処、御時直柄ヲも不弁不都合之願筋、猶又土人御賣向等不行情之段重々不埒之趣蒙御答、旧臘18日三ヶ御場所引上諸御免被仰渡御敷仕候、右者文右衛門敷還之數知無効義と著年申、大金御恩借之御方々様ニ對候者何共御申謝無之次第ニ奉存候、然処右御場所其儀他家江御請負被仰渡付候儀ニ成行候而者、文右衛門家族一同忽日用成方ニも差支、難致至極申斗も御座候間、實而者何卒御慈願ヲ以、分察宮右衛門江諸請負御付被下置度、然上者諸向より文右衛門借用金之義者、宮右衛門家業余力ヲ以、期宛ニ而も返金之趣意も相立申度、又者文右衛門家族一同額々ニも日用相成候様仕度奉致願候処、旧幕府中より文右衛門儀、北畠氏地取調方其他寺功之儀々御還取之上、以格別之御憐愍、旧臘22日宮右衛門江諸請負被仰付、雖有仕合ニ御座候得共、同人儀連も、本家文右衛門之被弊ニ准し、許金等可有所謂も知之、旧臘開店之初より差皆金主之御世話ヲ以、新業相管候迄之儀ニ有之候得共、本家見懸金等負數之義も同人一存ニ及衆、未だ決着も不仕難之次第ニ御座候間、御實察之上御勘弁被成下度奉願上候、隨而右御恩借之儀、宮右衛門より追々額々ニも相弁御返金ニ及、往々（ゆくゆく）御損毛掛上ケ不申様仕度、自今神額苦ハ罷在候、乍併今般入御説ニ候別問之通り、御上様より文右衛門拝借金其他儀々ニ而莫大之金迄、宮右衛門より弁納可仕義ニも

有之、猶又各様ヨリ御恩借金高10万兩余にも御座候得者、何儀（？）新業之宮右衛門之儀ニ付、前書之通り万端存意ニ任蒙候次第柄、乍併御實察被成下度奉願上候、依之此上額上衆候儀ニ者御座候得共何卒格別御慈願勘弁、御返金之儀者、無利足ニ而當巳年（明治2年）より而寅年（明治11年）迄10ヶ年休年御願手之上、而卯年（明治12年）より50ヶ年賦ニ御取立之義御問濟被成下度、文右衛門、宮右衛門、其外家族一同連印之口上書ヲ以、此段伏而奉敷願儀以上

明治2年巳3月
同加談 同 店支配人
定兵衛 榮六郎 順兵衛 同佐十郎 山田文治
篠田屋宮右衛門 山田文右衛門（原文は各一行づつになっている。又本文の句点は筆者がつけた。）

地他借財先々名前左之通奉申上候
那珂孫近藤久吉、敦賀船屋治左衛門 橋立西野三左衛門 輪島川崎佐左衛門 京京柳屋義八 佐藤栄太郎 江州位田松尾久左衛門 橋立西田孫左衛門 西虎貨丸権吉 京京川崎輝御座候 佐藤治兵衛 南吉次郎 位田松尾久七 橋立酒屋長兵衛 輪島柳屋太作 京京村形吉左衛門 佐藤三右衛門 嘉兵衛 南善治郎 越松園寿丸新兵衛 越松宮川坪根佐平太 青森住吉久左衛門（以下同趣）井天町鈴木佐吉、大町伊藤佐治兵衛 同米屋半七 同松代良吉 井天町杉野三次郎 岡山崎屋義 大町池田宮治 地蔵町朝屋忠五郎 大町田中正右衛門 同區屋清太郎 同武予武兵衛 大町佐藤半兵衛 井天町平船丹次郎 同區屋八郎右衛門 同平田新三郎 同大野六兵衛 同佐藤三太郎 大町佐野有右衛門 布田村中村佐兵衛

（文右衛門はこの42名に、夫々前述の敷額口上書を以て類み、併せて借用金書改め証文（借用金一札之筆）を入れたのである。）

常呂町郷土研究會発足

郷土の文化財や歴史の勉強をする小さいグループを4月からスタートさせます。はじめは中学生のための初歩的な学習から入り、ゆくゆくは研究も出そうと思つています。毎週土曜日の午後から予定しています。関心をお持ちの町民の方々もぜひ一緒に勉強しましょう。（事務所ー常呂中学校郷土研究室内、島山三郎太）（「新報」1日より）

28-101

北海道地方史研究

79

国立国会
45 12 -4.3

目 次

松前藩と軍役	海保 敬夫 (1)
越冬事件について	越崎 幸一 (6)
北海道史所感	河部たつを (12)
鏡・炭礦の蒸気機関車	信賀倉代治 (15)
山田文右衛門の祖父	浪瀬 謙仙 (19)
統計からみた明治期北海道の政治活動	蟹田 精司 (24)
第1～5 帝國議會北海道関係請願件名録(9)	栗山 寛 (26)
北海道卸糖業界物語(9)	みねひろし (52)
書 評	栗山 崇 (57)
秋 づ く (短歌)	笠島 博男 (11)
赤 蜻 蛉 (俳句)	笠島 同男 (56)

昭和45年11月

北海道地方史研究会

Kodak Color Control Patch

Blue Cyan Green Yellow

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

GYM

© KODAK 1974 781-N1008

昭和42年7月31日は、天塩炭礦鉄道廃止の日であった。

ダイヤは1日1往復の混合列車なので、留萌発17:30の17列車が、昭和16年開業以来約30年にわたる天鉄最後の列車仕事となるわけだ。

国鉄C58型蒸気機関車・2号機が、明治生れの客車、ナハフ101・ナハフ103・ナハフ104の3両を連結、発車を待っている。発車時間が近づいてホームが賑かになった。炭礦へ帰る人たちは最後の運行列車と知ってか知らでかドヤドヤと乗込む。

今日を限りの機関車の側へ行ってみた。

「いよいよ最後ですね……」

運転室の中の機関士に声をかけた。

無言で振向いた三浦機関士の目の中に、キラリと光るものを見たような気がした。

花束の贈呈もなく、錆の浮いた老機関車の渾く。さよなら列車は、霧雨の付むる中を、炭山へ向って消えていった。

国鉄の動力近代化計画などとは勿論関係はないが、わが炭礦の愛すべき蒸気機関車たちは、こうして、ひとつそと、ひとつひとつ消え去ってゆく——。(S45.3.30)

~~~~~

※ 福井卓治氏(札幌-828)〜「青江秀年譜」(未定稿)御査収下さい。7月下旬、上京に先立ち急ぎで製作したもので、多々不備がある事と思います。何卒御批判頂けますれば幸いです。調査日程は約10日間と云う限られた日数でしたが、2、3の新事実等を確認する事が出来得ました。誠に予想以上の成果を修める事が出来ました。明年を期して「伝記」刊行へと張り切ってます。約一世紀を経た今日、維新前後の状況が不明で史実の解明のためには、現地調査をと考えて居ります。未だ解明すべき多くの諸問題をかかえて居りますが、更に、更に努力の積重ねたいと考えて居ります。

会員堅田精司氏より送本用の封筒多数のご寄贈をいただきました。厚くお礼申し上げます。

## 山田文右衛門の祖父

須藤隆仙

78号に元木先生が山田文右衛門の歟口上書を紹介しておられる。貴重な史料である。関連して思い出したのだが、この山田文右衛門の祖父という人も仲々立派な人だつたらしい。追史関係者が余り知らない事柄があるので紹介しておこう。

山田文右衛門というのは襲名で代々文右衛門だ。普通よく名の出てくる文右衛門は十六代目である。いかに旧い家柄かが判る。

私がいまここに紹介するのは十六代目の祖父だから十四代文右衛門である。

実は山田家はこの十四代の時代に松前に渡ってきたらしいのだ。追刊「開拓の群像中」に載っている文右衛門の伝記はどなたのご執筆かは判らぬが「祖先は明らかでないが」としているが、以下次に述べる通り明らかなのである。

さて話が転ずるが仏教の書物で「妙好人伝」というのがある。妙好人(みょうこうにん)というのは念仏の信者で模範的な信仰生活を送った人のことである。純粋の宗教者だから非常に讃仰され鈴木大拙や柳宗悦らが盛んに書物に書いている。讃岐の庄松だとか石見の才市、因幡の源左などという人は有名である。

これら妙好人を多く収録して略伝を紹介したのが妙好人伝だが、このような伝書が編集されたのは天保年間であり続篇が出て人名が増えていった。大正4年には京都の法蔵館が現代語訳の妙好人伝二編を刊行、編集者を法蔵館編輯局としている。

さてこの法蔵館刊の妙好人伝第二編に、北海道の人2名が収録されているのだ。その1人が実にこの十四代山田文右衛門なのである。これによると山田家はもと能登の住であり代々東本願寺の門徒で篤信の家であつた。だいたい北陸という処は能登、加賀、越後、越前、越前ともに仏教信仰の厚いところで特に能登・加賀は門徒宗といわれる真宗の信者の多いところで有名である。

能登の山田家も真宗(東派)の信徒で十四代は全国から選ばれて妙好人伝に収録されるほどだから相当なものであつた。

十四代は若い時に松前に渡つた。天明8年幕府の巡見使がきたとき通詞をつとめている。はじめ

植草の留置場所支配人として後継した。

十五代から男仏、少衆、厚岸、根室各場所を請負い、十六代またこれを受け継いで活躍した。コンプの投石をしたのは有名な事である。

十四代は天保元年(1830)9月20日亡くをっている。とにかくこの人が「妙好人伝」という書に収録されているのはおもしろいことだ。余り一般に知られていない事なので紹介しておこう。

○ 妙好人伝に載せられた北海道の2人のあと1名は箱館在の赤川村に住む嘉助という百姓が上げられている。(天保12・3・15役)

○ 妙好人伝の古いものに嘉永年間(1820)の続編二巻があるが、その編者が「松前、象王」となっている。この松前がエゾ地の松前かどうか真宗の字名に聞いたが「松前はエゾの松前かと思ひます。然しこれも想像の域を出ません。何とか御地の方で調査下さるわけにはいきませんでしょうか」と返答された(1839年、大谷大学柏原祐典教授より返信)。松前の諸先生方どこかの寺で象王という僧名を聞いたなら教示下され度願ひ上げます。

○ 因みにコンプの投石についてだが「開拓の群像」には文右衛門の投石が断片的に最初のように記しているが、文右衛門がこれを始めた万延元年(1860)より百四十年も前の享保年間(1720)に津輕今別(の)貞伝という僧が津輕の地でこれを行つてゐた、ために今別には「投石忌」というものがある程で、断片は文右衛門が最初ではない。本道としては最初かも知れぬ。全国的には貞伝が有名だ。徳・貞伝の事蹟は拙著「日本仏教の北流」に述べがあるから詳細はそれを見られたい。

※ 立正大学昭和44年度史学関係卒業論文、北海道史関係は次の一つであつた。

河地俊幸・明治期における土族の北海道開拓についての一考察。

※ 早稲田大学文学部史学科卒業論文(455)のうち関係分……

○ 小林剛・アイヌ研究。

○ 作田注子・石川坂木論。

## 統計からみた明治期北海道の政治活動

堅 田 精 司

明治期の「日本帝國統計年鑑」には「政談院説会」統計が収録されている。この統計を利用して、北海道の政治活動を、全国の政治活動と対比させながら、考えてみようと思う。

政談院説会統計があらわれるのは、明治19年に開する年鑑からであり、以降、44年まで、貴族院統計が年鑑によつて判明する。表1-3が「日本帝國統計年鑑」によつて作成した政治院説会

表4 元老院説会白数

| 年  | 全国  | 本道 | 最多種族  |
|----|-----|----|-------|
| 8  | 390 | ?  | 政体 30 |
| 9  | 158 | ?  | 司法 6  |
| 10 | 101 | 1  | 財政 6  |
| 11 | 114 | -  | 議院 10 |
| 12 | 156 | -  | 財政 15 |
| 13 | 196 | 4  | 国会 54 |
| 14 | 188 | 1  | 殖産 14 |
| 15 | 129 | -  | 神祇 19 |
| 16 | 109 | -  | 警備 12 |
| 17 | 95  | -  | 警備 9  |
| 18 | 114 | 1  | 議院 22 |
| 19 | 61  | -  | ?     |

統計である。明治18年以前の貴族院統計がえられないため、第

考資料として、明治10年代における元老院説会白数を表4としてあげた。以下、この表を利用して考察をすすめる。

表4によつて、明治10年代における元老院に対する種別の傾向をみると、明治13年をさへとして、それまでの元老院・士族意識によつて支えられている種別から、被治者意識・平民意識によつて支えられた種別に、種別の主眼が移行したことがわかる。では、そうした全国的傾向が北海道でもうかがわれるだろうか。明治10年から19年までの間に北海道からの種別白数は

7件であり、そのうち5件は明治13、4年に集中した。あと、明治10年と18年に各1件集中しているわけだから、北海道の場合、明治13年を機として種別の性格が変化したか、どうかは、わからざいと言つた方がよい。

次に、道庁設置以降の北海道における政治活動を考えてみるわけだが、その前に、参考資料を提示しておこう。

【参 考 資 料】(年表)

明治19・道庁設置

20・北海道開拓局、保安条例公布

21・永山長官就任

24・永山長官退任

26・「北道十年計画」提出